

	計画に記載している「めざす姿」「短期取組内容」	市・スポーツ協会・関係団体が実施した主な取組 令和元年度～令和4年度	課 題	今後の対策
子ども (子どもの 運動機会の 拡充)	<p>1. 運動あそびの推進 (めざす姿) 多様な遊びの機会や場が充実し、運動が好きな子どもが増えている (短期取組) ●幼児期や学童期における運動あそびの必要性や重要性について保護者への啓発や周知の実施 ●親子で一緒に遊ぶ機会の提供や運動あそびの体験事業等の実施</p>	<p>○親子スポーツ教室の実施 (スポーツ協会) ○公園運動広場で遊ぶことができる体験プログラム(凧揚げ)の実施 (スポーツ推進委員) ○「リーバスカレッジ」で親子スポーツ体験を実施 (生涯学習推進課) ○「放課後子ども教室」「アート教室」において運動イベント、運動あそびを実施 (青少年育成課、生涯学習推進課)</p>	<p>○「放課後や学校が休みの日に外遊びや運動をしている」児童・生徒の割合が2017年度と比較して、小中学校ともに低下している(2022年度アンケート結果より)。 ○運動しない理由として「運動をするより家で遊んだ方が楽しい」と回答する児童生徒の割合が2017年度と比較して、小中学校ともに増加している(2022年度アンケート結果より)。 ●令和2、3年度においては、新型コロナウイルスの影響で、体験会やイベントを中止せざるを得ない状況であった。 ○子どもを安心して外で遊ばせる環境ではなくなりつつある(気候や安全面)。 ●行政内での連携・共有が不足している。 ●幼児期や学童期における運動あそびの必要性や重要性について、保護者への啓発や周知の実施をどんな機会(特に幼少期)に行うのか。</p>	<p>○自宅でもできる運動や親子でできる運動遊びの動画配信の検討 ●運動できる楽しさや少人数で簡単にできる運動 ○児童館・児童センターで運動遊びができることの啓発強化 ○福岡県のトップスポーツチームコンソーシアムを活用した県内トップスポーツチームによるスポーツイベント等の実施検討 ○他課と連携した、親子で一緒に遊ぶ機会の提供や運動あそびの体験事業等の実施強化 ○参加者が共感や期待感を持てるようなイベントの実施(誰が1番かを決めるとかではなく) ●イベントが継続して行えるプログラムの検討 ●幼少期に自宅や公園等で遊べる環境づくりをし、興味関心を持たせサークルでの活動に近づける。そして集団スポーツ・個人スポーツに導く。</p>
	<p>2. 学校体育・運動部活動の充実 (めざす姿) 学校体育や運動部活動が地域と連携し、学校における子どものスポーツ機会や環境の充実が図られている (短期取組) ●体力向上推進会議における、各校の取組の情報共有と活用 ●スポーツ医・科学に着目した指導者研修会の実施</p>	<p>○体力向上推進会議を開催(R5.2月) (生涯学習推進課、小・中学校) ○学校部活動の外部講師活用 (学校教育課) ○「古賀市部活動の在り方に関する懇談会」で、地域と部活動の連携について検討を開始 (学校教育課、生涯学習推進課、スポーツ協会) ○体力向上推進会議(各小中学校の体力向上プランや取組の情報交換および協議)を通して、体力向上に向けた効果的な取組の推進 (学校教育課、生涯学習推進課) ○ジュニアスポーツ指導者研修会、ジュニアスポーツ関係者交流の実施 (生涯学習推進課)</p>	<p>○将来に向けた部活動の地域移行に向けて、学校と地域との連携を進めるためには、指導者や活動場所、資金の確保が懸念される。 ●地域移行がされないと、学校現場での部活動は消失してしまう可能性があり、子どもの運動の機会が損なわれる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の目標値(小中学校 全国・県平均以上)を達成できていない (小学校5年男女:全国・県平均以上) (中学校2年男子:全国平均以上県平均未満、中学校2年女子:全国・県平均以下) ○運動部活動外部指導者の研修の場づくり ○マット運動、跳び箱など、スポーツ経験者(例えば大学生など)</p>	<p>○「部活動地域移行等検討委員会」を踏まえた地域スポーツ団体との情報共有 ○外部指導者とジュニア指導者がともに参加できる研修会・交流会の検討 ○中学校部活動の地域移行に当たり、外部の指導者(特に30代から50代の指導者)を取り入れやすい環境の整備や指導者を確保するための検討 ●将来に向けた部活動の地域移行に向けて、学校と地域との連携を進めるためには、今後2年間の部活動地域移行等検討委員会を踏まえた段階的な地域スポーツ団体との仕組みづくりと具体策の検討が必要。 ●家庭や地域の子どもの体力・運動能力、運動習慣等の実態や課題の把握と体力向上の必要性の啓発</p>
	<p>3. 多様な体験活動の充実 (めざす姿) 地域における子どもの体験活動が充実し、子どもの育ちにつながっている (短期取組) ●子どもの体験活動に関する事業連携の推進 ●親子や地域で遊ぶことのできる体験プログラムの創出</p>	<p>○福祉学習の推進事業の実施(バラスポーツ等の実施) (社会福祉協議会) ○公園運動広場で遊ぶことができる体験プログラム(凧揚げ)の実施 (スポーツ推進委員) ○アビスバ福岡との連携による、健康づくり地域交流フェスタの実施 (生涯学習推進課) ○子どもの体験活動である「アート教室」でのスポーツを取り入れた体験活動の実施 (青少年育成課、生涯学習推進課)</p>	<p>○「放課後や学校が休みの日に外遊びや運動をしている」児童・生徒の割合が2017年度と比較して、小中学校ともに低下している(2022年度アンケート結果より)。 ●令和2、3年度においては、新型コロナウイルスの影響で、体験会やイベントを中止せざるを得ない状況であった。</p>	<p>○スポーツ協会への委託事業である子ども向け・親子向け行事の周知啓発の強化 ●子どもを含めた地域スポーツやレクリエーション大会の調査と運営の研究 ●地域での子どものスポーツやレクリエーション活動等の調査 ○福祉学習の実施時期をあらかじめ決めておく等、実施しやすい環境の整備</p>
	<p>4. ジュニアスポーツ環境の充実 (めざす姿) 指導者の質的充実が図られている(グッドコーチ育成) 子どもがスポーツに親しみ、楽しむことができる環境が整備されている (短期取組) ●スポーツ指導者の資質向上のための研修会の開催 ●発育・発達段階に応じた指導のあり方についての啓発実施</p>	<p>○ジュニアスポーツ指導者研修会、ジュニアスポーツ関係者交流会の実施 (生涯学習推進課) ○親子スポーツ教室の実施 (スポーツ協会) ・バドミントン(車椅子)、テニス(車椅子)、ポッチャ、卓球、サッカー</p>	<p>○研修会、交流会に対する指導者の関心が高まっていない。</p>	<p>○先行予約団体の自主研修会の実態調査 ○指導者の研修会参加について必須とする仕組みづくりの研究 ●指導者確保の方策を検討及びそれに係る重点的な取組 ●指導者に関心を持ってもらう研修会、交流会の内容の検討 ●親子スポーツ教室への参加者を促すための、適切な広報活動</p>